

かつた。今やこのあらゆる苦々しい真相を君に語ることを何者も妨げはしない。僕の單に言はうとすることは、君が我々の協定した約束を破らうとしてゐるといふことだ。そして今すべての事柄を考へ直してみた丈けでも僕は、君の心意の技巧的な傾向に全く驚かされて了つたといふことを告白しないわけにはいかない。君は長い間君の不信なる計畫を懐いてゐたのだ、それは今や明かに僕には解つてゐる。君が先週に、殆んご許し難き態度で僕に宛て、あんな手紙を書いたといふことが、抑も僕のこの想像には好い證據なのだ。あの手紙の中で當の君自身が、可成漠然とそして矛盾もしてはゐるが、君には甚だよく解つてゐる事情に關する我々の間柄のことを書いてゐた。君は記述を恐れ、それを黙殺し、そして僕を馬鹿にしようとしてゐるのだ。しかし僕は馬鹿にされてはゐられない。何故ならこれまで僕に誰にもこんなことで馬鹿にされたいとは

ないのだし、かういふ點ではよく思はれてゐたのだから。僕はもう眼を開いてゐる。君は僕を迷はせ、エフゲニー・ニコラーイチのことで僕を混亂させやうとし、そして、今以つて僕には譯のわからない君の今月七日附の手紙のことで、僕が君から個人的の説明を求めてゐるのに、君は面會の時を伴つて、隠れてゐるのだ。僕は矢張りこのすべてに氣が附かないだらうと、君は思ふのですか？ 色々な人々を紹介するといふ方法でなした君も十分知つてゐらる、筈の、僕の仕事に對して君は報酬をする約束をしたのだ。そして、それと同時に、又僕にはさうして君がそんなことをするのか解らないが、君はつい先週頃にも僕から非常な金額を證書もなしに借り出すことを案出したものだ。そこで、金を持つて君は姿をくらまし、その上、エフゲニー・ニコラーイチに關して君の爲になした僕の盡力をも無視してゐる。君は恐らくは、僕が速かにシンビルスク

へ行つて了ふので君の事件を協定してゐる暇はあるまいと思つてゐるのであらう。しかし僕は眞面目に確言し、誓言する。若しも納まりがつかなければ、僕は、自分の用事を片付け、目的を達し、君を見附け出す爲に必らずもう二箇月の間ベテルブルグに留つてゐようと思つてゐる。何故なら僕も亦必要な時には人に打勝つにはさうしたらいかさいふを辨へてゐるからだ。最後に僕は君に告げさせて貰ふのだが、若しも君が最初は手紙で次には面會の上で今日満足な説明をしてもくれず、我々の間に存する約定の主要なる點に就いて君の手紙で明かにすることもなく、又エフゲニイ・ニコラーイチに關する君の意見をも十分説明しないならば、僕は君にまつて甚だ不愉快な、又僕にまつても實に堪らない色々な手段をさらねばならないのである。匆々不一。

五

(ピョートル・イワーン・イチよりイワーン・ペトローヴィチへ)

十一月十一日

最も敬愛する友、イワーン・ペトローヴィチ兄!

君の手紙を読んで僕は身を切られる思ひがしました。君の最も尊い友の一人に向つてこんな態度を採つて、親愛なるしかし不正なる友よ、君は恥かしくないのですか。こんなに性急に、そして十分事を説明もしずに、こんな屈辱的な疑惑を以つて僕を傷けることは、さういふわけなのだらう? だが僕は、君の心配に對して大急ぎで答へます。君が昨日僕に逢へなかつた譯は、イワーン・ペトローヴィチ兄、それは僕が突然に、而も全く思ひがけもなく臨終の床に呼ば

れたからなのだ。伯母のエフイミヤ・ニコラーエヴナは昨日の夜の十一時にたうごう亡くなつたのです。親戚會議によつて僕は、その悲しみに充ちた儀式の用意をするために選ばれたのだ。僕は、今朝は君に逢ふことも出来ず、一行も書送ることも出来なかつた程色々なことをしなければならなかつた。僕は我々の間に生じた誤解に就いては、心の底から悲しんでゐる。何の氣もなしに冗談のやうに言つたエフゲニー・ニコラーイチに關する僕の言葉を、君は全く悪い意味にきつて、而も僕に對して非常に侮蔑的な意味をそれに附加へた。君は金のことを言ひ出して、金に對する不安を表はしてゐる。しかし僕は餘計なことは言はずに、君の慾望を要求を満足させようと思ふ。が、尤も先週に君から借りたあの三百留は、或る同意を経た上でのものであつて、借金といふやうなものではないといふことを君に言つておかなければならない。借金だと思つれば

確に證書があつたに違ひない。僕は君の手紙に書かれてゐる他の點は論じようとは思はない。僕は言ふがそれは誤解だ。それは君のいつもの早計と熱衷性と我意だ。君の善良さを隔てのない心は、君の内心に固執する疑念を許さないこと、及び實は最初に手を差出すのは矢張り君だらうといふことを、僕は知つてゐるのです。君は間違つてゐる、イワーン・ペトローヴィチ兄、君は大變間違つてゐるのだ！

君の手紙は深く僕を傷けたにも拘らず、僕は今日にも進んで君のまごころへ辯解に行きたいのだ。が僕は昨日から全く断けまわりつゞけてゐるので、その爲全く疲れきつて、殆んご立つてもゐられない位なのです。その僕の苦しみに加ふるに妻が床に就いて了つたのだ。僕は彼女が本當の病氣にならなければいゝがと思つてゐる。我々の小さい者は、有難いことに直つて來た。だがもうペン

一九二
を措かなければならない。しなければならぬことが山程あるのです。それが皆緊急なごころなのです。いづれ又、親しき友よ。

六

(イワーン・ベトロヴィチよりビョートル・イワーマイチへ)

ビョートル・イワーマイチ兄!

十一月十四日

僕は三日間待つてゐた。僕はその間を利用しようと思つた——僕は、丁寧な禮法はすべての者に對する最大の裝飾だといふことを感じた。この十日に手紙を書いて以來、僕の存在に就いては言葉に於いても行爲に於いても君に思ひ

出させないでゐる。それは半ばは君が伯母さんに関してクリスチャンとしての義務を果すのを妨げない爲であり、半ばは君も御存知の或る用事に關して或る考察と研究との時間を必要としたからである。扨て僕は太急ぎで最も全体的なそして決定的な方法で自ら君に説明しよう。

僕は正直に告白するが、君の最初の二通の手紙を読んで、僕が何を欲するのかがいふことを君は理解してゐなかつた、ご僕は眞面目に推定した。それは僕がむしろ君と會見して面と向つて説明することを求めてゐたわけなのだ。僕は書くことを恐れてゐたのだ。そして僕は紙の上に思想を表はすといふ點では明快を缺いてゐるといふことを自ら責めてゐた。僕が不幸にも教養を缺き善い態度を持つてゐないこと、及び、自分が苦がい經驗から如何に屢々外見が誤れるかといふことを知り、花の下には折々蛇が隠れてゐるといふことを知つたが爲

に空虚な作法を避けてゐることには君も気がついてゐるであらう。然るに既に君は僕を理解してゐながら君が僕に然るべき返事を與へてくれないのは、約束を反古にし我々の間に存する友人らしい開柄を破らうと前以つて計畫してゐたからであるに違ひない。君は最近に於いて僕に對してなしたあの言語同断な行爲によつてそれを證據立てゝゐる。その行爲は僕の利害にとつては致命的なものであり、僕の豫期しなかつたことでもあり、且つは現在に到るまで僕の信じまいとしてゐたことである。僕等が知り合つた抑もの始めから君は、その惻巧なやり方で、又、優美な態度や物事に對する智識や君と事を共にする場合に得られる利益やで僕を捕虜にしてつたからなのだ。僕は、眞實なる友、好意ある人を見出したと思つてゐたからだ。媚びるやうな燥やかな外觀の下に、その内心には毒液を隠し、その隣人に對して良をかける爲に、及び許し難き欺瞞

の爲にその智慧を利用し、従つてペンと紙とを恐れ、又同時にその美しい言葉を、隣人と祖國との爲にではなく、彼等自身と何等かの交渉を持つた事件にたづさはる人々の理性を痲痺させ魅惑する爲に用ひる、さういふ風な多くの人々があるといふことを此頃僕ははつきりと認めるのだ。僕に對する君の裏切は、わが友よ、次の事柄からはつきりと見る事が出来るのだ。

第一に、僕の手紙で明瞭な歴然とした言葉で自分の立場を記述し、同時に最初の手紙に於いて、君が君の或る表現及び意向によつて特にエフゲニー・ニコライチに關して何を意味するのかを訊ねた時、君は大部分答へることを避けようとし、疑惑と不審とを以つて僕を混亂させ、そして君は冷然と問題を黙殺してつた。それから君は、僕を適當な言葉では言ひ表はすことも出来ないやうなやり方であしらつた後、君が傷けられたなき、言ひ出した。一体これは何

「こ名づけらるべきものなのでせう？ それから今度は、僕にこつては一分間も貴重であるのに、その僕をして君のあこを追つて町中を駆け廻らせておきながら、君は個人的な情を装つて手紙を書き、その手紙ではすべての必要なこに言ひ及ぶこを故意に避けて、全く無關係な事、即ち兎も角も僕の尊敬する君の奥さんの病氣のこや、君の赤ちやんが大黃で眠らせられたこや、齒を切つたこ言ふこや、そんなこを語つてゐたのだ。こんな事ばかりを君は、手紙をくれる度毎に、僕が侮辱を感じた程の不快な正確さを以つて仄かしてゐたのだ。成程、父親の心は子供の苦しみによつて引裂かれるのは僕にも分りますが、何故に、他の一層重要な又興味のある事が必要である場合に、そんなこを述べ立て、ゐるのであらう？ 僕は黙つて辛抱してゐた。けれども最早時は來たのであるから、僕は自ら説明するこを自分の義務だと思ふ。最後に君は

虚偽の約束を定めて幾度か僕を欺き、君に對する僕の到底考へられない馬鹿か笑ひ草の役を演じさせやうこしてゐたやうに思はれる。そこで最初に僕を呼んで全く僕を欺いておいて、君は發作に襲はれた君の病氣の伯母さんの許へ呼ばれたのであるこ言ひ、それも君の恥づべき正確さを以つてきつちり五時だなきと言つてゐた。幸にもこの三日の間に、僕は探索に成功して、君の伯母さんが發作に襲はれたのは七日以前の夜半前だこいふこを知つたのです。この事實から見るに、君は神聖なる親屬關係をば、全く無關係な人々を欺く爲に利用してゐたのだ。遂には君のその最近の手紙に於いて、君の親戚の人の亡くなつたのは僕が色々のこに就いて君のこころへ相談をしに行つた恰度同時刻であつたやうに書いて來た。こころが今や君の陋劣なる技巧と畫策とは、あらゆる信用を失つて了つたのだ。何故なら僕が幸にも好時機に於いて正確に得るここの

出来た信用すべき報道によれば、君の伯母さんは君が手紙で彼女の死を不信に定めた時よりも廿四時間遅く亡くなつたのだといふことを、僕は発見したのである。若しも僕が自分に關する君の裏切を見出した徴候をすつかり數へ上げるならば、到底限りが無いであらう。君が手紙を書く毎に僕を君の眞實なる友と名づけ、あらゆる種類の叮嚀な名前と呼んでゐるといふことだけ言へば、公平なる觀察者にとつては全く十分であらう。さういふことを君がするのは、僕の信するところでは、僕の良心を眠らせる目的に他ならないのだ。

今度は僕に關する君の主要なる欺瞞と裏切りに言ひ及ぼう。それは即ち我々に共通なる利害に關するすべての事に就いて、而もたゞへ君の言葉が曖昧であつたにせよ僕に十分解り兼ねてゐたにせよ、兎も角も我々相互の同意を明言してゐるあの手紙を君が不法にも竊んだことに就いての最近の君の沈黙と、それ

から僕を君の仲間と見做して證書なしに僕から借りて行つた三百五十留の野蠻極まる無理取り、及び最後に我々に共通なる知己エフゲニー・ニコライイチに就いての言語同斷の誹謗とである。今では僕にははつきり解るのだが、君は彼が（さう言ふことを許されるならば）君に乳も羊毛も供給しない牝山羊の如くであり、何物でもない、魚でもなければ肉でもない、さういふことを僕に示さうとしたのだ。それは君が今月六日附の手紙で貶しつけてゐるところのものである。僕は知つてゐるがエフゲニー・ニコライイチは謙讓な立派な青年で、又その爲に社會上の尊敬を引き寄せ、それを得、又それに價するのであらう。僕はまた、この二週間ばかりの間毎夜君がエフゲニー・ニコライイチと賭博をやつて、十幾留又は時とするに數百留も彼から捲き上げてゐたといふことをも知つてゐる。今や君はこのすべてを非認し、そして僕の苦しんだところのものを

償ふことを拒むのみならず、僕を仲間に引入れることを以つて誘惑したり、その爲に生ずる色々の利益で僕を釣つたりしながら僕のものである金までも私有してゐるのだ。最も不正なやり方で僕及びエフゲニー・ニコラーイチの金を私有した後、君は僕に償ふことを拒んで、その爲に誹謗を用ひて僕が努力を盡力を惜まずに君に紹介してやつた人間を不正にも僕に悪く思はせようとしてゐるのだ。ところが、これに反して君の仲間から聞くところによると、君はまだ彼を殆んど甜めないばかりにしてゐて、世間へは君の最も親しい友だと言ひ觸らしてゐるさうだ。さはいへ、君の計畫が何を目的としてゐるか、君の親しげな交際が實は何を意味するのか、それを忽ちに推察し得ないやうな馬鹿は世の中には一人もゐないのです。僕は言ふが、それは欺瞞であり、裏切であり、人間の義務と禮法との忘却であり、神の掟に對する叛逆であり、あらゆる形の惡徳

である。僕自身がい、證據でい、例だ。僕は何かで君を侮蔑したところがあるだらうか？ 而も何故君はこんな不法なやり方で僕を取扱ふのです？

僕の手紙はもう終りです。僕は自ら説明した。今度は決論だ。若しも君がこの手紙を受取つた後、最も速かに、先づ僕の渡した三百五十留米、第二には契約上僕に返済さるべき總金額を返してくれないならば、僕はあらゆる手段によつて君に返させることにします。公然の力にでも依るし、法律の保護の下にでもやる。そして最後に君に告げたいことは、あの事がいつまでも君の召使の手に握られてゐるならば、全世界の人々の眼の前に君の名を滅ぼし汚辱することになる、さういふことです。これだけ言つておきます。

(ビョートル・イワーマイチよりイワーン・ペトロヴィチへ)

十一月十五日

イワーン・ペトロヴィチ様。

君の野卑な、それと同時に奇怪な手紙を受取つた時、僕はその最初の瞬間にはそれをビリ／＼に引裂かうとする衝動に驅られた。しかし、僕はそれを珍奇なものとして保存することにした。けれども僕は、我々の誤解と不快な関係を眞實に残念に思つてゐる。僕は君に答へたいとは思はなかつた。が、僕は必要に強ひられてゐるのです。僕がこの短い手紙で君に告げねばならぬことは、何時如何なる時でも僕の家で君に逢ふことは僕にまつては甚だ不愉快だといふことだ。妻も同様に感じてゐる。妻は健康が衰へてゐて、タールの香も彼女を顛倒させる程なのだ。妻は、君の奥さんに「ラマンシャのドンキホーテ」をいふ本を

お返へしするさうです。大變感謝してゐます。君がこの前に來られた時置き忘れたと言はれる套靴ガコッシュに就いては、それが何處にも見當らないといふことを残念乍らお知らせしなければなりません。今以つて探してはゐるが、出て來なかつたなら、新しいのを買つて返します。永遠に君の眞友たることを名譽します。

八

(十一月の十六日にビョートル・イワーマイチは、郵便脚夫によつて齎された彼の名宛になつてゐる一通の手紙を受取つた。第一の封書を開き、白っぽい桃色の紙の注意深くたゞまれた手紙が出て來た。それは彼の妻の筆跡であつた。それはエフゲニー・ニコライチの名宛で、十一月二日の日附だつた。封筒の

中にはその他には何にもなかつた。ピョートル・イワーヌイチは讀んだ——

愛するユウジアヌ様！

昨日は全く駄目でしたの。良人が一晩中在宅だったのでございます。明日はきつちり十一時にきつちり来て下さいね。十時半には良人はツアルスコエへ行つて、晩まで歸らないことになつて居りますから。私は終夜ぢりぐしてゐたのですよ。お知らせやおたよりを有り難ふございました。何ごいふ澤山の手紙でせう。彼女は本當にあれを皆書いたのでせうか？ ですから彼女は上手ですわねえ。本當にごうも有り難ふ。あなたは私を愛してゐて下さいますね。お怒りにならないでごうか明日来て下さいませね。

アンナより

(ピョートル・イワーヌイチは第二の手紙を破り開いた——)

ピョートル・イワーヌイチ様。

きんなごことがあらうご、決して二度ご君の家の闕を跨がうごはしません。それを心配して紙を汚す必要はない。

來週僕はシンビルスクへ行くことにしてゐます。エフゲニイ・ニコラーイチはいつまでも君の貴重なる親愛なる友であらう。君の幸福を望む。套靴ガローシユのことは御心配は無用です。

(十一月の十七日にイワーン・ベトロヴィチは、郵便脚夫によつて齎らされた彼の名宛になつてゐる二通の手紙を受取つた。第一の手紙を開き、急いで無造作に書かれた紙片が出て來た。それは彼の妻の筆跡であつた。それはエフゲニー・ニコラーイチの名宛で、八月四日の日附だつた。その封筒の中には他には何にもなかつた。イワーン・ベトロヴィチは讀んだ——)

さらば、さらば、エフゲニー・ニコラーイチ様！ この事に對しても神様はあなたにお報る下さるでせう。幸福にお暮し下さい。ですが私の運命は悲しい、實に悲しいものです！ あなたは御自由です。若しも私の伯母が居りませんでしたら、私は全くあなたを信用しましたでせう。私をも伯母をも嘲笑しないで下さいまし。明日は結婚式なのです。伯母は、善い人が見附かつて持參金なし

で私を買つてくれると言つて喜んでおります。私はその人を今日始めておちおち見たのです。善い人のやうです。私は急き立てられてゐるのです。さらば、さらば……可愛い、御方！ 時々思ひ出して下さいましね。私は決してあなたのことを忘れは致しません。さらば！ 私は最初に差上げた手紙と同じに最後に自分の名前を書きます。覚えていらしつて？

タチアナより

(第二の手紙は次のやうなものだつた——)

イワーン・ベトロヴィチ様。

明日君は套靴ガローシユの新しいのを受取るであらう。他人のポケットから掠奪する。ここには僕は慣れてはゐないのだ。又往來でいろ／＼なガラクタを拾ひ上げる

「こも好きではないのだ。」

エフゲニー・ニコラーイチは彼の祖父の用事で一二日の内にシンピルスクへ行くさうだが、連れを探してくれと頼まれてゐる。君は彼を連れて行きたいとは思ひませんか？

(終)

大正十年二月二十日印刷
大正十年二月廿八日發行

(定價金壹圓)

曠野叢書
(3.4)
不愉快な窮境

著者

永島直昭

發行兼印刷者

東京府下北豊島郡長崎村高松一六二
松崎暎太郎

印刷所

東京府下北豊島郡長崎村高松一六二
曠野社印刷所

發行所

東京府下北豊島郡
長崎村高松一六二

曠野社

(振替東京五二五四七)

曠野叢書

定價一册十五錢送料四錢

(I)

田舎娘はか一篇

ブーシユキン作
永島直昭譯

再版

(内容)

驛場の主人。田舎娘。棺桶屋。

(2)

臆病者と四日間

ガルシン作
木村莊五譯

再版

(内容)

臆病者。四日間。



389
42

10.4.15

終

